

宮本 増憲 議員

(一問一答方式)



- ①令和7年度当初予算編成について
- ②大洲市の予算規模について
- ③紙文書の電子化について
- ④観光振興について

### 国政選挙の影響について

**問** 先の衆議院議員総選挙の結果、与党が過半数割れとなり、今後、国の予算成立が遅れる可能性がある。市の来年度予算編成にも少なからず影響を及ぼすと思われるが、どのように考えるか。

**答** 国の予算編成は、1月から始まる通常国会で予算審議が開始され、3月末までに予算が成立することによって、会計年度が始まる4月1日からの予算執行が可能となります。過去には、国会審議が遅れ、会計年度開始前に予算が成立しない場合は、経過措置として暫定予算が組まれたことがあります。

本市の予算編成作業も、国の予算編成と並行して行っており、政府予算案の閣議決定後に、当初予算編成に必要な地方財政計画や地方交付税措置の改正など様々な情報が公表されるため、市の予算編成に活用しています。そのため、政府予算案の閣議決定や地方財政計画の発表が遅くなれば、例年より短期間で作業を行うことになるのではないかと懸念しています。

一方で、国庫補助金や負担金などにおいて制度改正があった場合や、補助金の内示を受けて実施する事業などにおいて、当初予算編成に間に合わない場合は、これまでも6月補正予算に計上して対応することとしています。

### 予算の規模について

**問** 市の予算規模も大きく膨らんできている。今後も予算規模は拡大を続けるのか、どこかで落ち着きを見せるのか、見通しを教えてください。

**答** 近年予算額が上昇した要因には、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興事業や、令和2年からの新型コロナウイルス感染症対策や感染拡大に伴う臨時経済対策の実施、さらには、ウクライナ侵攻を

発端とした原油価格の高騰、現在の円安による物価の上昇、人材不足や最低賃金の引上げによる人件費の増加、また、高齢化や子育て支援策の対応などによって扶助費が上昇している影響があります。そのほか、予算は、公共施設の建設など大型事業を実施する際にも大きく増加します。

今後の見通しについては、近年、物価や労務単価などが上昇しており、国土交通省が発表した令和6年3月の公共工事設計労務単価は、1年前と比較して全国平均で5.9%引き上げられ、今後も物価上昇が続く場合は、歳出予算が増加していく可能性があります。

しかし、財源を確保した事業によって一時的に予算が増えた場合や物価上昇の影響ではなく、多額の市債を発行し続けて事業を実施することや、経常経費が賄えないために基金を取り崩すことで予算規模が膨らんでいくことは好ましい状況とは言えないため、今後も中・長期的な財政を見通し、的確に把握し、特に大型事業については計画的に実施していくことで持続可能な財政運営ができるように努めます。

### 肱南地区における取組について

**問** 肱南地域での取組は成功していると思っているが、他の地域が取り残されている感が否めない。市全体へどのように波及させていくのか。

**答** これからの周辺地域の活性化には、大規模な施設やイベントだけに頼ることなく、地域独自の魅力や特性を生かしながら観光に結びつけていくことが必要であると考えています。

具体的な取組としては、長浜、肱川、河辺地域の観光コンテンツ開発として、内子駅をスタートし、河辺、肱川を巡り、まちの駅あさもやを目指すコースや、あさもやをスタートし、長浜を目指すコースのサイクリングツアー、道の駅清流の里ひじかわ裏の河原をスタートし、大洲城下の下船場を目指し、肱川を下るカヌーツアーを計画しています。

現在、地元の食や文化、農林漁業体験などを新たな観光商品につなげていけるよう、受入れの可能性のある住民や事業者等に聞き取りを行っているところであり、個々の事情を鑑みながら、やる気や意欲が生まれ、チャレンジしてもらえるような働きかけをしていこうと考えています。